

六月の御教え

死ぬというのは、みな神のもとへ帰るのである。魂は生き通してあるが、体は死ぬ。体は地から生じて、もとの地に帰るが、魂は天から授けられて、また天へ帰るのである。死ぬというのは、魂と体とが分かれることである。

……「天地は語る」第六十五条……

解説

西条教会初代 高橋音五郎先生は「わが不幸の病氣災難の助かりを願うような神信心は迷信である」との思いでありましたが、二十七歳の時、松永の御広前にて川之江教会初代 高橋常造先生のご神徳により、それまで如何なる名医にも治せなかつた母親の大患が、一夜にして全快した奇蹟を目の当たりにして、この天地には人を救い助ける神様の在られることを痛感させられたのでした。以来、一心の精進により、ついには神様よりお知らせを頂かれるようになり、多くの人々を救い助けられ、御霊と交流される中に、時には、助からぬ御霊を救い助けるお蔭も頂かれるようになられました。

それらの初代先生の事績を鑑みるに、この冒頭の教祖金光大神様の御理解は正に、「私達人間は、神様の御蔭の中にこの世に生かされ、現身を終えては、また神様の身許に還って、御霊として御蔭を頂いてゆく」存在である事が分からされるお言葉であります。